

## 私のすすめるこの1冊

丹下裕史（美術科 准教授）

### 『刻々の炎』 『オブジェ焼き：八木一夫陶芸随筆』 八木一夫著

京都清水の陶家に生まれ、戦後まもなく鈴木治、山田光らと前衛陶芸家集団「走泥社」を結成し、陶芸の世界に新しい造形分野を確立した陶芸家八木一夫（1918～1979）の随筆集である。生前出版された「懐中の風景」をもとに没後再編集されたものが「刻々の炎」で、さらに再編集されて1999年に文庫本として出版されたものが「オブジェ焼き」である。八木は文筆にも長け、数多くの文章を遺した。

私と「刻々の炎」との出会いは学生時代にまで遡る。当時は80年代半ば、「前衛」も「オブジェ」も、まだ言葉にリアリティーが感じられた時代だった。田舎から京都に出て来た当時の私にとって、指導教官の口からたびたび出てくる八木一夫の名前は「オブジェ」という言葉とともに、なにか呪文のような、魔法の響きがあった。当時の大学には、わけのわからないことが面白い、そんな雰囲気があり、傍らの私は吸い寄せられるように美術書を読んだ。「刻々の炎」はその中の一冊である。

内容は、八木一夫自身の経験や日々の気付きをもとにしたエッセーである。戦前戦後の京都のノスタルジックな風景を読み取る楽しみもあるが、そう一筋縄ではいくものではない。しばしば心に引っかかる刺のように簡単には飲み込めない。しかしある時スッと腑に落ちることがある。八木一夫は韜晦と諧謔を楽しむタイプの人だったといわれ、時を越えて彼に試されているのかのような錯覚に陥る。ともあれ、制作活動にも通じる、自己の更新

を確認する面白さがこの本にはあると感じている。

陶芸家としての八木一夫にも触れておきたい。オブジェという言葉が陶芸界に定着させた、いわば現代陶芸の先駆者である。伝統を受け止め、また抗いながら、「土から陶へ」のプロセス※というやきものの原点に立ち戻ることで、土と火による独自の造形の可能性を探し求めた。

2004年、京都国立近代美術館で没後25年の回顧展があった。私には、どうしても観たい作品があった。能弁で具体的なモチーフのある作風から大きくスタイルを変え、幾何学的ともいえる極めてストイックな造形を示した最晩年の黒陶群である。

実は、私の中で長い間これらの八木作品を捉えきれないところがあった。なぜ土でそこまで厳しい造形をしなければならないのか。その問いの答えは、膨大な数の作品群の一番最後にあった。

圧倒的な自立性。精神がそこにある感じ。これまで八木一夫を、陶芸という脈絡、論理でしかみてこなかった自分を悔いた。八木は自身の作品について、陶芸でも彫刻でもない「鶴」のようなものと述べている。矛盾を自覚し、あえて身を置く覚悟。八木一夫は芸術家であり、運命としての陶芸家なのだと感じた瞬間であった。

※「現代陶芸の造形思考」金子賢治／阿部出版／2001

詳しい資料情報は次のページをご覧ください→

◎「私のすすめるこの1冊」で紹介された本

『刻々の炎』八木一夫著 駸々堂出版 1981年 [図書館 開架南館2階 750.2||Y15]

『オブジェ焼き：八木一夫陶芸随筆』八木一夫著

講談社 1999年 [図書館 開架南館2階 750.14||Y15]

◎参考文献

『現代陶芸の造形思考』金子賢治著 阿部出版 2001年 [図書館 開架南館2階 750.04||KA53]

◎その他、八木一夫に関する本

『八木一夫展：没後二十五年』京都国立近代美術館、日本経済新聞社編

日本経済新聞社 2004年 [図書館 開架南館大型2階 706.9||Y15]

『八木一夫作品集』八木一夫著 講談社 1980年 絶版 入手検討中

『八木一夫』乾由明責任編集 集英社 1982年 絶版 入手検討中



八木一夫氏は、1968年から1971年まで、京都教育大学の非常勤講師として教鞭をとられました。かつて京都教育大学で教えていた先生の作品と思って見ると、また違った気持ちで見ることができるかもしれませんね！

参考文献：『オブジェ焼き：八木一夫陶芸随筆』p.273 年譜より（書誌情報は上記参照）

## ミニ企画展「写真の歴史」が終了しました

平成24年1月26日(木)から2月14日(火)にかけて開催しておりましたミニ企画展「写真の歴史」が終了しました。会期中は100名以上の方が、安江先生の写真作品を眺めたり、写真集を手にとったりしていました。展示された写真集は、いずれも図書館所蔵の資料ですので、会期終了後はそれぞれの配置場所に並んでいます。興味を持った写真があれば、ぜひ借りてじっくり眺めてみてください。

### ～ミニ企画展「写真の歴史」を終えて～

世の中に溢れかえっている写真、映像。現代を生きる私たちに必要不可欠な写真を含めた映像メディアを読み取る能力。それは、画面に呼応し、突き抜け、作者の思考と感覚の結び目に辿り着き、ときほどくことだ。そうすることで、作品は身体の奥底に佇み、温かく幸せな物語として生きつづける。そして、ある日、突然、新しい自分になるための何かが喚起されることにつながる。

美術科准教授 安江 勉

## 図書館からのお知らせ

### ふれあい伏見フェスタのご案内

平成24年4月14日(土)のふれあい伏見フェスタでは、下記のようなイベント・展示等を予定しています。詳細は、図書館ニュース4月号やホームページ等でご確認ください。

【附属図書館】

- ・観光ガイドブックに載っていない伏見の見どころ・昭和編
- ・古本市

【教育資料館】

- ・ようこそ！教育資料館（まなびの森ミュージアム）へ



# 春季休業に伴う長期貸出について \* \* \* \* \* \* \* \* \* \*

下記のとおり長期貸出をしますので、ご利用ください。

対 象	院 生 ・ 教 職 員	学 部 生
貸出期間	2012年1月16日(月) ～2012年3月14日(水)	2012年1月28日(土) ～2012年3月28日(水)
貸出冊数	1 2 冊	7 冊
返却期限日	2012年4月11日(水)	

- \* 視聴覚資料は除きます。
- \* 長期貸出図書の貸出更新（延長）はできません。  
一度返却してから翌日以降貸出の手続きをとってください。
- \* 一般利用者・卒業生の方の長期貸出はできません。
- \* 卒業・修了予定者の方の返却期限日は3月9日(金)です。  
下記の「卒業・修了予定の方へ」もお読みください。



## \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* 卒業・修了予定の方へ

### 1. 貸出期間の延長

卒業・修了予定の方の貸出は2012年3月9日(金)までとなっています。それ以降も貸出を希望される場合は、所定の手続きを行うことによって、2012年3月23日(金)まで延長できます。カウンターでお尋ねください。

### 2. 卒業後も図書館を利用される場合

一般利用者としてご利用いただけます。卒業後の利用案内および利用証の申請書は卒業時に配布します。3月23日(金)の卒業式・修了式の日から利用証を発行しますので、ご希望の方はカウンターでお申込みください。3月中ならば、お申込み当日に利用証をお渡しすることも可能です。なお、卒業後は本学の学生と利用条件が一部異なりますのでご注意ください。

2012年4月2日(月)以降の手続きには、①住所確認書類、②卒業生と確認できる書類(卒業証書または卒業証明書等)が必要です。利用証は後日郵送になります。

※2012年3月末で本学を卒業・修了しない方で、貸出中の図書の返却期限日が3月9日(金)になっている方は、2012年4月11日(水)に変更されます。図書館への申出は不要です。



## ～ 図書館開館スケジュール ～

2012年 3月

日	月	火	水	木	金	土
				▲	▲	休
4	5	6	7	8	9	10
休	▲	▲	休	▲	▲	休
11	12	13	14	15	16	17
休	▲	▲	▲	▲	▲	休
18	19	20	21	22	23	24
休	▲	休	▲	▲	▲	休
25	26	27	28	29	30	31
休	▲	▲	▲	▲	▲	休

2012年 4月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
休	▲	▲	▲	▲	▲	休
8	9	10	11	12	13	14
休	●	●	●	●	●	▲
15	16	17	18	19	20	21
休	●	●	●	●	●	▲
22	23	24	25	26	27	28
休	●	●	●	●	●	▲
29	30					
休	休					

### <カレンダーの見方>

日付	9:00～21:00
●	
日付	9:00～17:00
▲	
日付	休館日
休	

- 3月7日(水)は館内整理日のため休館
- 3月12日(月)は大学入試後期試験のため休館



Transformation of and Prospects for Educational Anthropological Studies in Postwar Japan  
(戦後日本における教育人間学の変遷と展望)

Mika OKABE

岡部美香 (教育学科 准教授)

京都教育大学紀要 No.119 pp.113-122 平成 23 年 9 月

人間は、人間に教育されることによって人間になる——これは、教育(学)の領域では当たり前のことと見なされています。ですが、この一文をよく読んでみてください。「人間」ということばが3つ使われています。それぞれ少しずつ意味合いが違います。一つめは、生物学的に見て「ヒト(Homo sapiens)」という種に属する生き物として生まれてきた動物一般をさします。二つめは、教育する人のこと、通常は「大人」と呼ばれる成熟した人のことです。三つめは、社会的・文化的・人格的に「人間らしい」「一人前」とされる人のことを意味しています。生まれてきたばかりの赤ちゃんは、「ヒト」ではありますが、「人間らしい」振る舞いをすることもできなければ「一人前」でもありません。周囲の大人が教育的な働きかけをすることによって、赤ちゃんは「人間」になることができるのです。

ところが、「大人が子どもを教育する」というこの当たり前の図式が徹底して疑われたことがありました。第二次世界大戦後のドイツと日本においてです。ナチズムとファシズムは、人間の本性に本来的・生来的にそなわっているとされてきた善性(the innate goodness of human nature)への信頼を完膚なきまでに崩壊させました。果たして大人は子どもを本当に「よりよく」教育することができるのでしょうか。「よりよく」教育するとは、どのような教育を通してどのような人間を育成することなのでしょうか。「人間らしい」人間とは、いったいどのような人間のことなのでしょうか。

教育人間学は、人間と教育を徹底的に疑い、それでもなお子どもたちの幸せを願い、その未来に希望を託すところから生まれた学問です。本論文では、戦後の日本における教育人間学の変遷を辿り、今後の展望を論じました。あらかじめ定まった「正解」などない教育実践に日々、不安や戸惑いを抱きつつ取り組む大人は、子どもや教育をどう捉えればいいのか。本論文が、このことを考える一助になれば幸いです。

本タイトルの論文は京都教育大学紀要 119 号に掲載されています。

京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/> にも公開されています。



\*\*\* 節電実施中です \*\*\*

附属図書館では、冬の電力不足に備え、学習に支障のない範囲で照明を調節するなどの節電対策を実施中です。ご協力よろしくお願いいたします。

●京都教育大学附属図書館ホームページはこちらから <http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版図書館ホームページはこちらから  
<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/m/mhome.htm>

右記のQRコードからも  
アクセスできます



京教図書館 News No. 138 (2012 年 3 月号)

発行日：平成 24 年 3 月 1 日

編集発行：京都教育大学附属図書館

内容に関するお問い合わせ先：library@kyokyo-u.ac.jp



京都教育大学